

棉の栽培から製品作りまで 究極のメイドインミカワ

# ミカワ・コットン・プロジェクト in 蒲郡

「ミカワ・コットン・プロジェクト in 蒲郡」とは、市内の繊維事業者が市内で棉を育て、その棉で生地を織り、製品化するという、究極のメイドインミカワを目指す三河木綿プロジェクトです。平成24年度から取り組んでいます。

耕作地には遊休農地を利用し、毎年少しずつ耕作面積を拡大しています。平成26年2月には、市内で栽培した棉を使った第1弾商品として、ハンカチやタオルなどが一般販売されました。若者自立支援の一環として、NPO法人青少年自立援助センター「北斗寮」の寮生も参加し、一緒に汗を流しながら棉栽培に取り組んでいます。

年度	耕作面積 収穫量
24	5,000 m <sup>2</sup> 60 kg
25	10,000 m <sup>2</sup> 300 kg
26	15,000 m <sup>2</sup> 未収穫



① 種を植える  
遊休農地を活用して畑を作り、手で種を植えていきます。三河地方に伝わる三河地棉、米国産の洋棉などの種類があります。



⑤ 商品にする  
タオルやハンカチ、肌かけなどの製品になります。伝統の三河木綿とはまた違う、綿独特のふんわり感が味わえる肌にも優しい製品は、赤ちゃん用品にも使えます。コットンサミットやインターネットで販売します。

④ 種を分けて糸にする  
棉の中に絡まっている種を、種取り機に掛けて棉と種を分けます。三河地棉は毛足が短いため、洋棉と混ぜて糸にします。

## メイドインミカワの作り方



② 育てる  
農薬は使わないため、害虫は手作業で駆除したり、捕まえるための仕掛けをつけたりします。北斗寮の皆さんが頑張ってくれています。

③ 収穫する  
8月下旬から12月末までにかけてできる、白くはじけたコットンボールを手作業で摘み取ります。



「棉」と「綿」

豆知識

三河地方では、実を収穫して種を取り除いた段階までが「棉」、打ってほぐして「綿」になると区別しています。